

第 26 回 (令和元年度)
千葉県建築文化賞表彰作品集



主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

令和元年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第26回となる今年度は、相次ぐ台風と大雨により多くの方々が被災される困難な状況の中、67点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞3点及び入賞4点の合計9点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、歴史的価値ある建物や伝統的な工法の保存継承を図るもの、地域の再生や交流を促す場所など、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

令和2年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	ニッケコルトンプラザ ツムグテラス	8
第26回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	moto.8	8
さわら町屋館(上川岸小公園)	3	One Table	9
椿庵	4	「地域とつながる小さな街並み」	9
犬吠テラステラス	5	選考の基準	10
宮下どろんこ保育園 つむぎ×TSUMUGICAFFE+子育て支援センターちきんえっぐ	6	千葉県建築文化賞検討会議	10
山武 野口邸	7	千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧	10
		受賞作品の位置	

第26回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募67点から9点授賞



(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第26回千葉県建築文化賞は令和元年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数67点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物8点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞3点、入賞4点を表彰候補作品として決定した。

多くの魅力的な作品を応募していただいた皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝したい。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		37	8	1	2	3
住宅		30	5	1	1	1
合計		67	13	2	3	4

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は37点であり、公共施設、保育園・幼稚園、店舗などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「さわら町屋館(上川岸小公園)」は、重要伝統的建造物群保存地区の一角、小野川沿いに建つ無料休憩所を中心に、文化的活動の場としても利用される蔵、朝市などに使われる東屋が、中庭を介して配されている。伝統的町屋を再現しつつ、町屋の構造補強を念頭に置いた工法を試みるなど、町並みの連続性と同時に、その保存継承にも資する意欲的取り組みが高く評価された。

優秀賞の「犬吠テラステラス」は、本州最東端犬吠埼に立地する廃旅館をリノベーションしたコミュニティと観光の拠点である。増築が繰り返された建物はRC造・S造・木造が複雑に入り組んでいるが、それを敢えて残し、地域住民と観光客に居場所を提供する施設としている。柔軟なプログラムを含めて、民間主導で地域再生に取り組む試みが評価された。

「宮下どろんこ保育園 つむぎ×TSUMUGICAFE+子育て支援センターちきんえっぐ」は、民営化保育園と児童発達支援施設を併設した児童福祉施設である。既存園舎を残しながらの建て替えであったため、園庭が北側に配置されているが、建物の分節と入念な採光によって自然光に満たされた保育室が実現している。広い縁側を介して光あふれる庭に園児を導く手際もみごとである。

入賞の「ニッケコルトンプラザ ツムグテラス」は、大型商業施設に併設された都市型保育所であり、大きな中庭型園庭を囲んで教室を配置し、安全性と開放性の両立をはかっている。「moto.8」は、鉄道駅直近の裏通りに面して建つテナント兼用住宅であり、奥の店舗への通路を兼ねた中庭に、築約80年の木造住宅が解体・再現されてシンボルとなっている。「One Table」は、日本の道百選に選ばれた桜並木沿いの空き店舗を活用したカフェであり、飲食店経営を志す人のインキュベーターを兼ね、シャッター通り再生の起爆剤を目指している。

授賞にはいたらなかったが、新しいタイプの複合霊堂など、変化する社会ニーズに応えようとする公共施設の試みにも見るべきものがあつた。

住宅の部

住宅の部の応募は30点であり、比較的小規模な専用住宅が多かったが、設計密度の高い作品に恵まれた。

最優秀賞の「椿庵」は、旗竿敷地に建つ茶室付住宅である。通りからつづく路地の正面に、客人を迎えるように茶室が配され、右手玄関をくぐると、奥庭に向かって内路地が延びている。延べ床面積88㎡の小住宅だが、2階サンルームの格子床を通した光が1階に降りそそぎ、明るくゆったりした空間をつくりだしている。きびしい条件のもとで施主の想いとデザインが共鳴した作品と言える。

優秀賞の「山武 野口邸」は、里山を背負う築190年の旧家を大規模に改修した住宅である。建築当初の土間を再現し、その上部を大きな吹き抜けとしている。既存の建具類を再利用すると同時に、壁や開口部を断熱化し、床下に耐震ダンパーを設置するなど、居住性と防災性の向上をはかっている。黒漆喰と杉板の外壁にどっしりした瓦屋根をいただいた姿は、重厚な歴史の継承を感じさせる。

入賞の「地域とつながる小さな街並み」は、築100年の民家(イベントスペース)、蔵(カフェ+ギャラリー)、住まい(防災基地)の3棟を庭でつなげ、地域の人びとの交流の場として再生している。

授賞にはいたらなかったが、密集市街地の路地を取り込んだ共同住宅、房総の海と山の景観を取り込んだ住宅など、文脈に意欲的に応答しようとした試みが見られた。